

浴衣着付け4回で習得コース



目次

頁

準備

着物に必要な小物を準備 する	-----	1
-------------------	-------	---

裾合わせ

着丈を決める	-----	1
上前を決める	-----	3
下前を決める	-----	3
余った身頃の処理をする	-----	3
腰紐を結ぶ	-----	4
腰紐より上の身頃の処理	-----	5

衿合わせ

衣紋を決める	-----	5
前の衿合わせをする	-----	6
下前の処理をする	-----	6
腰紐で押さえる	-----	6
背中の始末をする	-----	7

おはし折の始末

おはし折の位置を決め整 える	-----	8
右脇の始末と伊達締め	-----	8

帯結び

帯の巻きつけの準備	-----	9
帯を巻きつける	-----	10
手先で結ぶ	-----	11

目次

頁

帯結び

おハネをつくる	-----	12
おハネを手先で結ぶ	-----	13
結んだ手先の処理	-----	15
おハネの形付け	-----	15
おハネを後ろへ回す	-----	16
最終チェック	-----	18
出来上がり	-----	18

MIYUKI-kimono 着付け教室

電話問い合わせ

フリーダイヤル 0120-25-4677



着装に必要な小物を準備します。

(浴衣 半幅帯 腰紐3本 伊達締め1本 補正用タオル)

和装用肌着またはキャミソールを着装。(浴衣は、襦袢は着装せずに1枚で着装する為です。)

補正用タオルは肌着の上から巻き腰紐でとめます。



衿に衿芯を通します。(衣紋が綺麗に決まります。)

(注意) 下前の衿の内側から通してください。

上前の衿から通すと衿芯が見えます。



浴衣を羽織り、掛衿と掛衿を合わせ片手で持ち、空いた手で背縫いを持って前後に引き合い、背縫いを背中心に合わせます。

(point) 掛衿を持った手が体の中心を通る様に引き合います。(左右にぶれると、背縫いも左右にぶれます)





腕をまっすぐ下ろした位置（衿先から、手幅一つ分上の辺り）で浴衣をしっかり持ち、着丈を決める。

(point) 裾合わせをする時に持つ身頃の位置は重要です。（腰の位置）

(point) 一度脇まで持ち上げてから、下ろしていき着丈（くるぶしの位置くらい）を決めると、余った身頃が外に折れます。

↓

余った身頃が、ウエストに締める紐に挟まり難くなります。

↓

身頃が紐に挟まると、挟まった身頃を引き抜かなければなりません。

その引き抜いた分のボリュームが、紐の緩みとなり着崩れの原因になります。



着丈はくるぶしが標準です。



左の脇縫いを自分の脇に合わせ、前幅(上前)を決めます。
(手はまっすぐ横に移動)



余った分はしっかり下前の方に引き、脇まではまっすぐ
に持っていく、脇で5cm程引き上げます。

(point) 下前を持っている右手の位置が重要です。
(下前を体に巻きつけた時、左脇にくる位置)



上前もまっすぐ横に持っていく、下前・上前共余った身
頃をウエストより上に上げます。(この時、浴衣を押さえる手
はウエストの位置)

(point) 特に下前は見難い為、きちんと上げきる。



ウエストの位置を左手で綺麗に始末をします。

(point) 始末して余った身頃は、ウエストより上、上前の中に入れておきます。



ウエストの一番細いところに紐を結びます。
(ここの紐だけは、しっかり締めます。)



身八つ口から両手を入れ、余った身頃を、前 横 後ろ
全て下ろしておきます。



掛衿と掛衿を合わせて片手で持ち、空いた手で背縫いを
持って前後に引き合い、背縫いを背中心に合わせ、衣抜
の抜き加減を決めます。

(point) 衣紋の抜き加減は、握り拳一つ分が標準です。
掛衿を持つ手は、体の中心をとおします。
(裾合わせ時と同様)



決めた衣紋を前に引かないように注意して、前の衿合わせをします。(前の衿合わせは喉の窪みが隠れる程度)



おはし折の部分が、ごろつかないように、下前はウエストの部分で上へ折り上げておきます。

(写真は分かりやすい様に外でしていますが、実際は上前に中で行います。)

(point) 首元からお紐を掛ける位置より少し下までを、直線にしておく。



お紐を掛ける。(この紐は締める必要はありません。体にきちんとフィットしていれば大丈夫です。)

(point) 下前・上前の衿を紐を掛け終わるまで、必ず押さえておきます。(衿合わせを崩さない為)



背縫いを背中心に合わせ、背中やしわ・たるみを取り除く。(片方の手で背縫いを押さえ、空いた手の人差し指を紐の下に入れ、脇まで移動させれば、上手くいきます。)



衣紋の形を整える為、紐の下で肩甲骨の延長線上を下へ引きます。

さらに、そこから少し内側と背中心も紐の下で引きます。





帯を結ぶ位置から下 5cm～6cm の幅を 360 度整えます。

(ゆかたの場合はおはし折が 360 度見えます)

(手幅分の幅を下前の方へ押していくと、上手くいきます。)



整えて、余った身頃は上前の中に入れて、始末をし、伊達締めで押さえます。



(point) 下前は前へ上前は後ろへ引き合えば綺麗になります。



帯板（ゴム付が便利です）をして帯結びをします。

帯結びは前で結び、後ろへ回します。



帯先を二つに折り、肘の長さ分はかります。（以後、手先と呼ぶ）。

（注意）手先は一度決めたら、次回からは必ず決めたほうを使って下さい。 どちらにも折癖がつくと帯結びに支障がでます。



手先を右に向け、輪を下にして、今計った位置を右手に持ちます。 左手は 30cm 程のところを持ちます。



右手を前中心に当て、手先の先は背中まで体にそわせ、ふた巻きします。



ひと巻き目と、ふた巻き目の時、右脇で、左手で手先を、右手で帯の上線を持ち、右手だけ前へ押して締めます。
(左手は、帯を締める時に帯が全体に滑らない様に支えているだけです。)



右脇から斜めに折り上げ、体の前中心で帯幅が半分になるようにして左手で持ちます。
次に、右手で手先を左胸まではずします。



手先を上にして帯の上線の上で結びます。
(帯の上線の上で結ぶのがポイントです。)





手先を下に下ろし、たれ元を右へ返します。
(右へ折り返すのが、重要)



たれ先でおハネの長さをはかります。
おハネの長さが決まったら、内側へ巻いていきます。





結び目が、おハネの中心にくるように移動させます。

(point) この時、結び目の所に緩みが残らないようにします。



おハネの中心で、二つ山をつくります。



おハネを左手でしっかりと握ります。

右手で手先を持ち、手先を上にして、もう一度締めなおします。

(point) この時、たれ元が右へ折り返しているかを、確認します。

ここを間違えると、結べません！



手先でおハネを結びます。



右手でおハネを、左手で手先を持って、しっかり締め
きります。

(point) 真横に引き合うとしっかり締まります。



手先を帯の下へ回し、帯の中へ差し込みます。



結び目を帯の中に差し込み、おハネの長さが左右対称になっているかを確認します。





形付けをします。

この帯結びは蝶結びです。

(これが、浴衣の帯結びの基本形です。この結び方を覚えれば、おハネのとり方次第で幾通りもの帯結びが可能です。)



右手でおハネを持ち、左手で帯の下線を背中心で持ち、右へ回します。

(注意) 左に回すと、胸元が崩れます。

右袖が邪魔になり、おハネをつぶしてしまいますので、お袖は右腕にかけておきます。





右手は離して、左手に添えて下さい。
左手は、前中心にくるまで、絶対に離しません。



左手が前中心まできたら出来上がりです。
(背中心で持った左手が、前中心にくるということは、
前にあったおハネが背中心にいつている筈ですので、
鏡等で確認して下さい。)



最後に前を軽く下へ押し、両脇を片方ずつ上へ引き上げると、格好良くなります。



出来上がりです。